

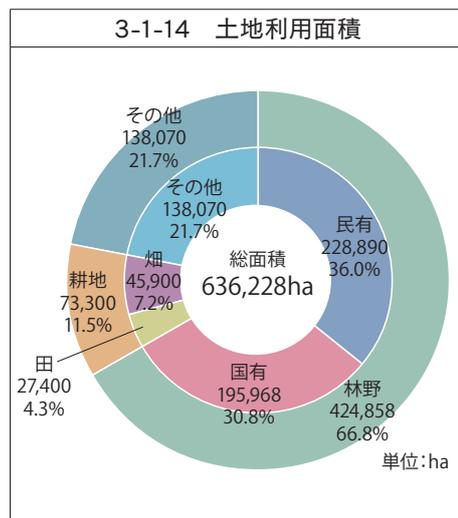
2 森林環境の保全

(1) 公益的機能の高い森林づくり

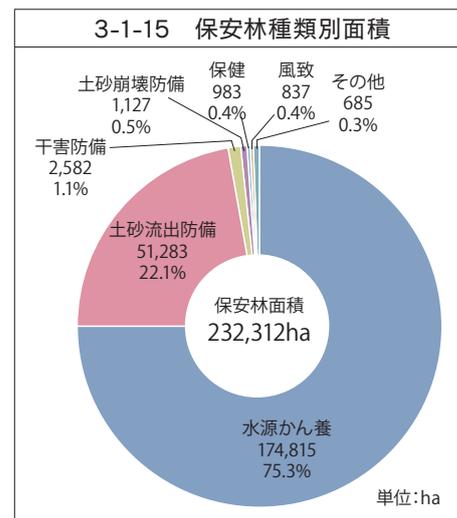
〔8つの施策〕

現状・課題

○県土面積の3分の2を森林が占め、国有林率46%、保安林指定率55%は、全国平均の31%、48%に比べ高い状況です。



(資料 群馬県：森林林業統計書)



(資料 群馬県：森林林業統計書)

- 利根川の上流に位置し、水源涵養、災害防止など、本県の森林が果たす公益的な役割は、首都圏の生活、産業活動を守り支える上で、極めて重要です。
- 台風の大型化や局地的な集中豪雨の頻発により、山地災害の発生する危険性が高まっています。
- 山村地域では過疎化や高齢化が進行し、維持・管理ができない森林が増加しており、森林を適正に整備及び保全し、将来にわたって公益的機能を維持していくことが重要です。
- 東毛地域の平地林から北毛地域の亜高山帯に至る多種・多様な森林が存在し、多くの動植物が生息しています。
- 辺境の奥山まで人工林化が進み、整備の遅れた森林が増加傾向にあります。
- 「ぐんま緑の県民基金事業」により森林環境を改善し、安全・安心な生活環境の創造に取り組んでいます。
- 平地林が近県に比べ少ない状況ですが、「ぐんま緑の県民基金事業」により平地林を公有地化する取組が始まっています。
- 地域林業の衰退、高齢化、人口減少等による耕作放棄地の増加、竹林の拡大等による里山の荒廃が進行しています。
- 「再生可能エネルギーの固定価格買取制度」により、森林における太陽光発電施設の設置が増加しています。
- 県内では、平成22年に初めてカシノナガキクイムシによるナラ枯れ^{※1}が確認され、現在、被害は一部地域に留まっていますが、今後の拡大が懸念されています。

1 総括

- 治山事業による森林整備は順調に進捗しており、平成26年度からは「ぐんま緑の県民基金事業」による森林整備も実施されていますが、引き続き森林が有する公益的機能を持続的に発揮させる必要があります。
- 継続的に災害に強い森林づくりを進めるとともに、保安林制度等の運用により、森林を適正に保全する必要があります。

2 施策展開

「水源地ぐんま」として、水源涵養^{かん}、災害防止、地球温暖化防止機能等、公益性の高い森林の維持・造成を図ります。

〈重点取組〉

- ◇森林が有する土砂災害等を防止する国土保全機能や、洪水調節機能などの公益的機能を持続的に発揮させるため、間伐等森林整備を推進します。
- ◇豪雨、地震等により山地災害が発生した場合には、早急に復旧整備を行います。
- ◇山地災害による被害を防止・軽減するため、既存施設の維持管理・更新等を図る長寿命化対策や計画的な施設の設置を行います。
- ◇公益上重要な森林は、保安林に指定することにより、長期にわたって保全します。
特に、山地災害を防止・軽減するため、**山地災害危険地区^{*2}**における保安林指定を重点的に進めます。
- ◇無秩序な森林の伐採や開発を防止するため、「林地開発許可制度」を適正に運用するとともに、市町村と連携し「伐採届出制度」の適正な運用に努めます。
- ◇林野火災の未然防止を図るため予防対策を実施します。
- ◇里山・平地林等の森林環境を改善し、安全・安心な生活環境の創造を推進します。
- ◇重要な平地林は、森林所有者との協定や公有林化等を通して保全を図ります。

◆数値目標

項目	現状(平成22年)	実績(平成26年)	目標(平成31年)	備考
間伐等森林整備面積(ha/年)	—	2,267	3,500	
広葉樹造林面積(ha/年)	85	64	100	
民有林治山事業による森林整備面積(ha)	—	2,044	4,000	9年間累計
山地災害危険地区における保安林指定面積(ha)	—	280	500	9年間累計
民有林治山事業施工面積(ha)	—	318	600	9年間累計
平地林保全面積(ha)	526	526	530	

◆具体的施策

①災害に強い森林づくり

- ・豪雨、地震等により発生した山地災害を最小限にとどめるため、山腹工や治山ダム等の治山施設を設置し、早急に復旧整備を行います。
- ・山地災害による被害を防止・軽減するため、山地災害危険地区の見直しを行い、予防治山事業による計画的な事前防災・減災対策を推進します。



写真：山地災害の発生



写真：山地災害の復旧

- ・治山施設の特長等を踏まえつつ、既存施設の機能強化等を含め、計画的な維持管理・更新等を図る長寿命化対策を推進します。
- ・「ぐんま緑の県民基金事業」により、条件不利地等の森林整備を推進します。
- ・市町村が作成する市町村森林整備計画に基づき、森林の機能区分^{※3}に応じた整備・保全に取り組みます。



写真：手入れが必要な森林
(立木が混み合い、日が差し込まず、下草が消失して土壌が流出)



写真：手入れを行った森林
(日が差し込み、立木が旺盛に成長)

- ・水源涵養^{かん}、災害防止など、これまで重視されてきた公益的機能の発揮に加え、生物多様性の保全に資する森林の整備方法についての調査・研究に取り組みます。また、一斉林^{※4}や単層林^{※5}から混交林^{※6}や複層林^{※7}へ誘導するための研究に取り組みます。
- ・保安林等の公益上特に重要な森林の機能を高めるため、治山事業等によって森林の整備を行います。

②森林の適正な保全

- ・水源涵^{かん}養や山地災害防止、都市周辺の環境保全など、公益上重要な森林は、保安林に指定することにより、長期にわたって保全します。
- ・無秩序な森林の伐採や開発を防止するため、県及び市町村、森林組合は、情報の共有に努め、密接な連携により森林法に基づく「伐採届出制度」、「林地開発許可制度」を適正に運用します。
- ・森林法に基づく「森林の土地の所有者届出制度」、群馬県水源地域保全条例に基づく「森林の土地の所有権移転等の事前届出制度」により森林の監視を行います。
- ・森林保全巡視指導員及び森林保全推進員によって、違法な開発・伐採やゴミの不法投棄などの早期発見に努めます。
- ・林野火災を未然に防止するため、予防啓発等の取組を推進します。
- ・カシノナガキクイムシによるナラ枯れの拡大を防止するため、県、市町村及び国有林は連携して情報収集に努め、早期発見・駆除対策を推進します。
- ・ナラ枯れは高齢樹の発生が多いことから、発生地周辺では、健全木の伐採・利用を図って森林の若返りを推進します。
- ・保全すべき重要なマツ林や公園・神社等で単木として保全しているマツは、薬剤の樹幹注入により松くい虫被害^{※8}の防止に努めます。



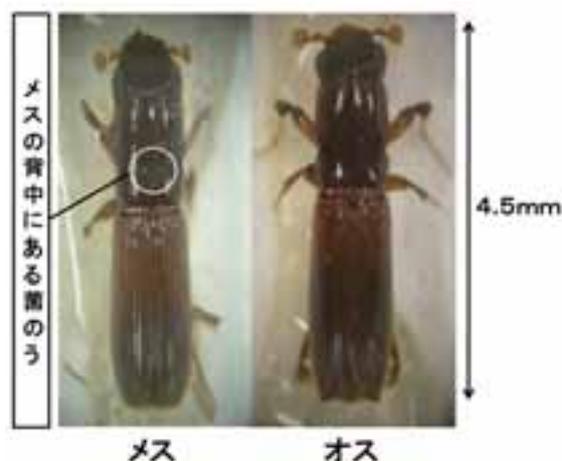
写真：土砂流出防備保安林



写真：太陽光発電を目的とした林地開発許可地



写真：赤茶色に変色したナラ枯れ箇所



写真：カシノナガキクイムシ（菌のう：ナラ菌を貯える器官）

③平地林の保全・管理

- ・平地林の保全に対する気運が一層高まるよう、市町村と連携し、地域住民等への働きかけを積極的に行います。
- ・「ぐんま緑の県民基金事業」により、里山・平地林等の森林環境を改善し、安全・安心な生活環境の創造を推進します。
- ・地域のシンボル、憩いの場、環境学習の場などとして重要な平地林は、当該自治体による森林所有者との協定あるいは公有林化等を通して保全を図ります。



写真：住民に親しまれる平地林



『用語の解説』

※1：【カシノナガキクイムシによるナラ枯れ】

カシノナガキクイムシがナラ・カシ類等の幹に穴をあけて穿入し、体に付着した「ナラ菌」を多量に樹体内に持ち込むことにより発生する樹木の伝染病。

※2：【山地災害危険地区】

山くずれ、地すべり、土石流が発生した場合、人家や公共施設に被害が及ぶ恐れが高い地区、また、過去に実際に被害があった地区について調査し、その危険度が一定以上の地区。

※3：【森林の機能区分】

森林の有する多面的機能を上手に活かすために、それぞれの森林で特に大切な機能に応じて森林を分けたもの。

※4：【一斉林】

皆伐跡地に一斉に植林して造った、単一の樹種の森林のこと。

※5：【単層林】

人工更新により造成され、林齢や樹種が同じで、単一の樹冠層からなる森林のこと。

※6：【混交林】

2種類以上の樹種が存在する森林のこと。

※7：【複層林】

人工更新により造成され、林齢や樹種の異なる樹木で構成された森林のこと。

※8：【松くい虫被害】

マツノマダラカミキリにより運ばれた体長約1 mmの線虫であるマツノザイセンチュウがマツの樹体内に進入することにより引き起こされるマツの伝染病。